

## クサムスビ

EXTRA  
ISSUE

オテラートが開催！

九月五日から十三日まで九日間  
の日程で小立野地区、寺町地区、浅ノ川地区の十一カ寺を会場に  
オテラート（お寺＋アート）金澤  
2015が開催されました。曹洞宗  
八カ寺、法華宗一カ寺、当寺を含む  
浄土真宗二カ寺を会場に約六十名  
の作家が参加し、現代アートから伝  
統工芸まで様々な作品を展示しまし  
た。それらの作品は今年のオテラ  
ートのテーマである「獅子吼」とい  
言葉の如く訪れた人々に強く訴えか  
けるものでした。

また各週末には、ワークショップ  
やライブなど参加型のイベントも  
多数用意し、来場者の方々も気軽に  
アートに触れていただくことができ  
ました。

浄 光寺では「アートで知るわた  
しのまち」と題し、沈金師の  
芝山佳範さん（森山町小出身）と森  
山町小学校のみなさんに参加してい  
ただき、幕末の大衆免（現在の森山）  
を舞台に描かれた時代小説『獅子で  
勝負だ、菊三』（剣町柳一郎著）の  
世界をアート作品として表現して、  
小説にも登場する浄光寺に展示しま

した。会期中は1500人も来場  
者があり、特に土日は多くの人で賑  
わいました。

剣 町氏の作品は、歴史上の有名  
な武士や職人ではなく、主に  
裏路地に住む名も知れない人にス  
ポットを当てられており、十年程前  
に「ちよだ文学賞」を受賞した当  
作品では、大衆免町と隣町である  
森下町（現在の馬場）の獅子を中心  
に幕末の金沢城下の様子が生き生き  
と描かれています。（詳しくは後述  
のあらすじをご参照ください）今回、  
両町の歴史ある獅子頭（大衆免の四  
頭は石川県立歴史博物館より二十年  
ぶりに里帰りさせた）を使用し、そ  
の蚊帳（胴体）部分を新たに制作。  
そこに3年生約70名が芝山さんと  
描いた獅子のイラストを展示しまし





「盆正月」芝山佳範×3年生



「小説の暗唱」1～6年生



「獅子で勝負だ！」芝山佳範



「大衆免町」住職

た。実際に獅子頭を観ながらスケッチした作品はどれも色彩豊かで独創的。子供たちの感性は素晴らしいですね。

また森山町小学校では「今月の詩」と題し毎月様々な詩を暗記し、校長先生の前で暗唱しています。このようなかたちで普段から文学に親しんでいるみなさんに今回は、『獅子で勝負だ、菊三』を暗唱していただきました。参加したのは一年生から六年生で場所はいつもの校長室です。暗唱している様子を撮影・編集してプ

ロジェクターで上映しました。大人でも難しい言葉遣いをスラスラと暗唱している姿に驚かされました。地の歴史や文学を身近に感じていただけたのではないのでしょうか。

芝山さんは小説の世界を沈金パネルとして制作されました。作品には大衆免町の晴れ獅子と森下町の雨獅子の間に虹がかかる様子が描かれています。また小説に描かれている獅子の角も制作。境内の銀杏の木の下に展示しました。

住職は今回の小説を縁に獅子のこ

とや大衆免の町名などについて調査し、旧町名マップや町名の系譜図などのパネルを制作し展示しました。

その他、二匹のオランダ獅子頭（金魚）を泳がせたちよつと不思議なドーム型の水槽（千恵の水槽）や、太平侑花さんの樹脂粘土で造られた花々、中原梨容子さんの日本画なども展示されました。

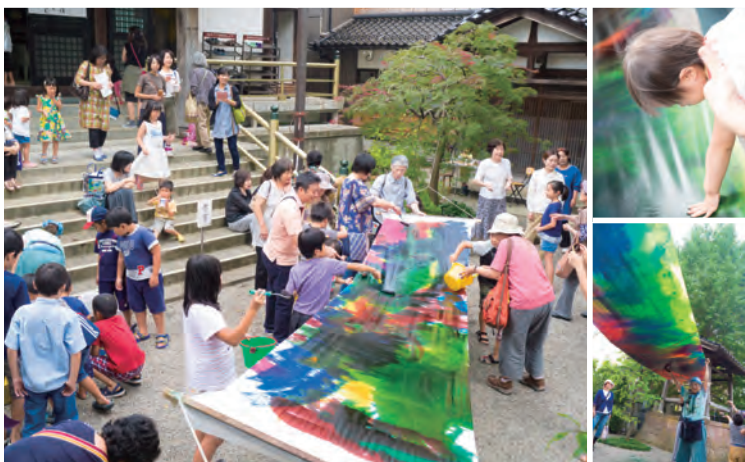
展示以外にも「野染め制作体験」、「アクセサリー作り」、「コーヒーハンドドリップ講座」、剣町氏の「トイイベント」などが行われました。

また、オテラートの週末四日間限定で、五月末で八十年の歴史に幕を閉じた松永松味堂のかき氷も境内に出店してくださいました。地域に愛された思い出の味を求めて連日大行列ができました。

今回のオテラートという縁を通していかに地元のことを知らなかったということに気づかされました。大衆免の獅子頭然り、大衆免町然り。地域の忘れ去られた歴史や文化を再発見する貴重なご縁をいただけたことに感謝いたします。

## 野染め制作体験

五日午後二時、講師に染色家の宮<sup>みや</sup>文子<sup>あやこ</sup>さんをお迎えして「野染め制作体験」が行われました。まずは、大きな布にみんなで思いっきり色を乗せていきました。その後、お持ちいただいたシャツや帽子、ストールなどを思い思いの色に染めました。赤ちゃんや車椅子のお年寄も参加してくださいました。



## アクセサリ作り

六日午後二時〜四時、アクセサリ作りをしました。講師は作品も展示している太平<sup>たいへい</sup>さんと中原<sup>なかはら</sup>さん。樹脂粘土やプラ板を使ってかわいいアクセサリを作りました。好評につき最終日の十三日にも開かれました。



## ハンドドリップ講座

六日午後四時、「コーヒーハンドドリップ講座」が開催されました。講師はコーヒーのスペシャリスト、アリーカ<sup>ありか</sup>フェの有延<sup>ありのぶひろゆき</sup>宏之<sup>ひろゆき</sup>さんです。

有延さんのお話は理論的かつ技術的なこともお話されますが、全く堅苦しいことがなく、和やかな雰囲気で行っていきます。楽しく、美味しくいただけることが一番だそうですよ。ご参加の皆さんはとても勉強熱心で、様々な質問が飛び交い熱いコーヒー講座となりました。淹れたコーヒは作家さんのカップで試飲。飲み比べを楽しみました。



## トークイベント

十二日午後二時、小説家、剣町<sup>つるぎまち</sup>柳一郎<sup>りゅういちろう</sup>氏による講演会が開かれ、約

40名が参加しました。講題は「時代小説の面白さー加賀獅子頭についてー」。今回の小説に登場する獅子頭や大衆免町、そして浄光寺のことなどを中心に加賀獅子頭や獅子舞、時代小説について語ってくださいました。今回の小説を縁に獅子頭や大衆免について調べていくと史実と一致することが多く驚かされました。また同時に、フィクションとノンフィクションが交錯する時代小説の面白さに魅了されました。この度の不思議なご縁に快くご協力くださいましてありがとうございます。





牝獅子(大衆免)



牡獅子(大衆免)



韋駄天(大衆免)



子獅子(大衆免)



「獅子の角」芝山佳範



百貫獅子(森下町)



「獅子の文鎮」芝山佳範



「アートアクアリウム」坂北千恵



オランダ獅子頭(金魚)



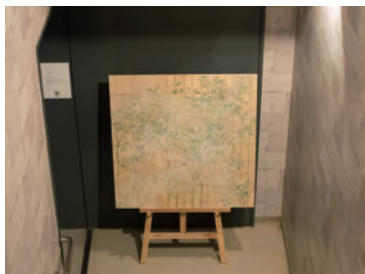
「盆正月」芝山佳範×3年生



「盆正月」(森下町)



「盆正月」(大衆免町)



「生」中原梨容子



「嬉々」太平侑花



地下室の作品を見る小学生



松永さんのかき氷



大人気のかき氷



賑わう境内



「ししぬりえ」



図工の授業で来寺



暗唱の映像に見入る



山野市長も来寺



獅子舞の映像を観る



剣町氏の講演に聞き入る



合掌



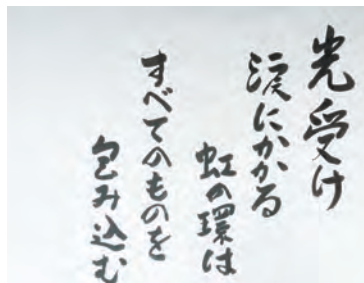
テレビ撮影



賑わう本堂



100枚塗ってくれました



9月の掲示



有延さんの講義に聞き入る

「獅子で勝負だ、菊三」

### 剣町柳一郎

ありすじ

弘化二年、加賀前田家十二代藩主斉泰の病が平癒したことで、盆正月と呼ばれる祭りが行われることになった。加賀藩はとくべつな祝い事がある時に、盆正月が行われることになっていく。町内毎に出し物が演じられ、七福神の造り物や獅子舞いが城下を練り歩く。その列の順は籤引きで決められる。大店が立ち並ぶ森下町の前に、地子町である大衆免町の獅子がくることになった。森下町では名人大野弁吉が獅子頭を彫ったばかりで、大衆免町のあばれ獅子の前に披露したいのだった。

祭りが近づいた日、大衆免町ではあばれ獅子の角が無くなっているのに気付く。両町の若衆がそのことで喧嘩になろうとする。大衆免の町肝煎が「祭りの前に喧嘩はよくない、獅子同士の喧嘩はどうだろうか」と、森下町の町肝煎に持ちかける。雨を降らせるうな

り獅子、晴れを望むあばれ獅子。金も時間も無い大衆免町は、仏壇の木地彫りをしている菊三に頼み込んで獅子を彫らせる。菊三は考えた挙句、雨の降る日に履く高下駄の古木歯で獅子頭をつくり鹿皮を張った。世を睨み、悪人を、殿様を睨む、八方睨みの獅子である。あばれ獅子の角は浄光寺の大銀杏の根元に埋められていた。

祭り当日、雨が降ると森下町の若衆から喚声があがり、雨が止むと大衆免から声があがった。そのうちふと振り返ると、大きな虹が城下にかかっているではないか。誰もが空を見て、ワーッと喚声をあげた。

「これは、勝ち負けなしだ。虹がふたつの町を架け渡している」  
菊三は、天の采配に感心した。

### 浄光寺てぬぐい

画 弘澤英亮



小学生×立川吉幸×浄光寺

### 第三回 ちっぽけだんご

五月八日(金)

九日(土)

法話 浄光寺住職  
落語 立川吉幸

五月八日～十日、三日間の日程で九力寺を会場に今年も立川流一門の立川志ららさんと立川吉幸さんをお招きして「第三回おてらくご」が開催されました。

落語を縁に気軽に仏法に触れていただければと開催してきた「おてらくご」ですが、今年是一般向けの公演の他、森山町小・馬場小・浅ノ川小の三校も課外授業として参加しました。

当寺では、八日・九日各午後二時の二公演が行われ、落語は両日とも立川吉幸さんが担当。そして八日には森山町小学校六年の吉田亮太君も落語を披露して注目を集めました。

八日、小学生の部では、昨年同様の四年生と五年生に加え、「おてらく

ご」が縁で発足した落語クラブの四年～六年生や保護者など計125名にご参加いただきました。

まずは、みんなで『正信偈』のお勤め。昨年以上に子供達の大きな声の本堂に響き渡り、大変驚かされるとともに、とてもうれしくもあり頼もしくもありました。

次は住職による「おはなし」。「輝いている ちっぽけだんご かけがえないのち」をテーマにイラストや絵本をスクリーンに映し出しながら一緒にいのちのつながりについて学びました。



そして次はいよいよ吉田君の出番です。流れる出陣子とともに高座に上って得意の「時そば」を披露し、

吉幸さんの前座を堂々とつとめてくれました。これまでも全校生徒の前やデイサービスでお年寄りの前など度々落語を披露してきた吉田君、今後が楽しみです。

続いて吉幸さんが高座に上がり、まずは小話。軽快な口調で皆さんを笑いの世界に引き込みつつ古典落語を二席披露してくださいました。演目は「子ほめ」と「平林」。当然子供達には大うけ。終始子供たちの笑い声が絶えませんでした。

最後は吉幸さんへの質問コーナー。子供らしい素朴な質問やちょっとおかしな質問などが飛び交い、楽しい時間は閉幕となりました。それにしても、小学生の反応の良さにはいつも驚かされます。落語はもちろんのこと正信偈や法話もとても良い反応をしてくれるのです。何事も素直で真剣に向き合う姿勢、大人の私たちも学ばないといけないかもしれません。

昨年に引き続き小学生を招待させていただいたわけですが、この一年で子供たちにとって落語と仏法がとも身近なものとなったのではない



でしょうか。

**九**日、午後二時は一般の部。当寺にとつてはじめて日中の開催となります。明るい時間帯ということもあり、近所のデイサービスや老人ホームの方々にも足をお運びいただくことができました。子供からお年寄りまで130人を超える幅広い年代の多くの方々がお越しください、本堂は立ち見の人がでるほどで満堂となりました。

最初は『正信偈』の唱和。小学生に負けなくらい大きな声でみな

さんと一緒にお勤めしました。

そして任職の法話。昨年の地獄に引き続き今年は極楽。プロジェクトで極楽浄土の絵図を映し出しながらの極楽ツアー。普段私たちが見失っている輝きのこの世界に触れながら、娑婆世界を生きる私たちの在り様についてお話させていただきました。

続いて、吉幸さんの落語。「真田小僧」と「試し酒」をたっぷり楽しんでいただいて、最後は任職の感話で締めくくられました。



### 平成28年回忌表

- 一周忌・・・平成27年(2015年)
  - 三回忌・・・平成26年(2014年)
  - 七回忌・・・平成22年(2010年)
  - 十三回忌・・・平成16年(2004年)
  - 十七回忌・・・平成12年(2000年)
  - 二十三回忌・・・平成6年(1994年)
  - 二十五回忌・・・平成4年(1992年)
  - 二十七回忌・・・平成2年(1990年)
  - 三十三回忌・・・昭和59年(1984年)
  - 三十七回忌・・・平成55年(1980年)
  - 五十回忌・・・昭和42年(1967年)
- ※(～)内の年は法要を勤める場合もあります。法要のご依頼はお早めに。

### きこまいけ

毎月二十八日・午後二時  
十二月～二月は冬休み

みんなで『正信偈』のお勤めの練習とお勉強をしています。途中参加、初心者の方も大歓迎です。



## 年中行事

## 「除夜の鐘」、「修正会」

大晦日、元旦

除夜の鐘に合わせたように雨から雪へと変わり、雪が降りしきる中、鐘の音が響きわたりました。鐘の音を聞きながら、午前零時より修正会が本堂で勤まり、皆さんと尊前で新年を迎えられたことを喜ぶと共に、今いただいている命の出発点を確認させていただきました。また境内では炊き出しの接待もあり、身も心も温まることができました。

## 「お太子さん」

三月二一日

鈴木大拙館館長 木村宣彰

今年もご講師として木村宣彰先生をお迎えして、聖徳太子御忌が勤まりました。聖徳太子の御木像の前に皆さんと和国の教主、聖徳太子の恩徳をいただき直しました。



## 「追弔会」

八月十三日

僧侶・シンガーソングライター

鈴木君代

旧盆に合わせて追弔会が勤まり、亡き人を縁に幅広い年代の方がお集りくださいました。勤行後のご法話は今年もライブ形式。今回は、

は京都より僧侶でシンガーソングライターの鈴木君代さんをお迎えしての法話&ライブとなりました。オリジナル曲や仏教讃歌、童謡などを披露していただき、合間のご法話では皆さんの心に響くメッセージ性の強いお話を頂戴することができました。



## 「報恩講」

十月十七日・十八日

光闍坊住持 佐野明弘

道因寺住職 相馬 豊

今年も皆さまに「おみがき」や「おとき」等のご協力をいただき、無事に「ほんこさん」をお迎えすることができました。ご法話には加賀市より佐野明弘師（十七日）、白山市より相馬豊師（十八日）にご縁をいただくことができました。佐野先生のご法話を当寺法話録「結草」No.⑩に掲載しておりますので、是非とも熟読ください。



相馬豊先生

佐野明弘先生